



IUGG2003総会への寄付のお願い

日本気象学会常任理事会
募金担当理事 木田秀次

本 IUGG2003 総会は、9 月号にてご案内しましたように、約 2 億 9 千万円の予算で運営される計画として準備が進められていますが、そのための経費は、参加者の登録料を主にしつつ、自治体、企業、公立機関、および個人などからの寄付を基礎にして立案されています。

つきましては、気象学会員からの募金を始めるに当たり、会員の皆様のご協力を頂くため、まずは、募金の趣意をご理解頂きたく存じます。具体的な寄付の方

法等につきましては、改めて次号にご案内申し上げます。

また、本募金は、日本の IUGG 関連諸学会においても同じ目的で募金が行われていますが、日本気象学会としては、組織委員会/募金委員会への仲介役としての役割を果たすため、気象学会員の皆様には、気象学会事務局宛で寄付を申し出て頂くよう、ご考慮頂ければ幸いです。なお、募金の期間は、6 月末頃までになる予定です。

募金趣意書

平成14年 4 月
第23回国際測地学・地球物理学連合総会
組織委員会 委員長 上田誠也
募金委員会 委員長 高木章雄

第23回 国際測地学・地球物理学連合 (IUGG) の総会が、平成15年 (2003年) 6月30日から7月11日まで、2週間に亘り札幌市で開催されることとなりました。

この国際学会は、1922年に第1回がローマで開催されて以来、4年に1度開かれてきた地球・惑星科学研究関連の最も伝統ある大会です。これまで主に欧米各国で開催されてきましたが、アジアでは今回が念願の初めての開催となります。

IUGG は地球・惑星科学研究の国際的な発展の促進を目的とする国際学術団体で、測地学・地球物理学を中心とした7つの協会から構成されています。測地学・地球物理学は、4,000年以上の歴史を持つ伝統ある学問で、研究対象は遠く宇宙空間から大気・海洋、地球内部まで及んでいます。現在は宇宙探査・気象通信衛星・海洋開発・各種観測機器・計算機等の目覚ましい進展や新技術の導入等によって、より魅力的で先進的な学問体系として生まれ変わっています。研究内容は、人類共通の課題である地球環境・気候変動、石油/

鉱物/水等の資源・エネルギー、地震・火山噴火・津波・台風・洪水・豪雨などの自然災害問題など、社会活動とも密接に関わっており、国際社会の中でこれらの問題への積極的な取り組みに大きな期待を寄せられている日本にとって、今回の大会を通して国際的な情報・意見交換を行うことは、研究者のみならず技術者や企業活動に関わる方々にとっても大きなチャンスであると確信します。

第23回 IUGG 総会は、日本学術会議と日本測地学会、(社)日本地震学会、日本火山学会、(社)日本気象学会、地球電磁気・地球惑星圏学会、水文・水資源学会、日本水文科学会、(社)日本雪水学会、日本海洋学会、日本惑星科学会、日本陸水学会、(社)土木学会、日本地下水学会、日本温泉科学会、(社)砂防学会、日本地球化学会の主催の下、文部科学省(予定)、海洋科学技術センター、経済団体連合会等の後援を得て、現在組織委員会が中心となって準備を進めているところであります。

総会を日本に誘致するに当たり、若手研究者の旅費負担を軽減するための措置が強く要望されました。一方、アジアや発展途上国の学者の総会参加を支援する体制の整備にも国際的な期待が寄せられました。このため本総会の資金計画では、参加補助のグラント制度の費用として5000万円が計上されています。

参加支援体制が整備されれば、この大会の参加者は5000名に達するものと見込まれております。大会経費は基本的に参加者の参加登録費と、政府・地方自治体からの資金で賄われ、経費節減のため、関係者一同あらゆる方法で努力を重ねておりますが、国際的な支援体制については減額が困難であり、現状ではかなりの

収入不足が予想されます。

このような状況を打開するため、個人・法人の皆様への御理解と御援助をお願い申し上げる次第でございます。募金は主として国際支援グラントのために用いられる計画になっております。諸経費御多端の折柄、誠に恐縮ではありますが、この国際会議は我が国の地球科学の実力を世界に提示する絶好の機会であり、その成果は21世紀の測地学・地球物理学・惑星科学研究の発展に大きく資するものであることをご高察いただき、是非ともご支援を賜りますよう、切にお願い申し上げます

以上



教官（筑波大学地球科学系）の公募

当学系では、下記により教官を公募することになりました。

記

1. 公募人員：教授1名
2. 所 属：筑波大学地球科学系
3. 担 当：大気科学分野に関連する大学院教育、気候学および気象学分野に関連する学群教育（学部相当）
4. 応募資格：博士の学位を取得していて、気候学、気象学あるいは大気科学のいずれかに精通していることが応募の条件になります。着任後は上記の分野に関連する大学院・学群の授業および研究指導を担当していただきます。担当していただく予定の授業科目は、大学院では地球環境科学特論、大気科学野外実験、大気環境学など、学群（学部相当）では気候学・気象学、同演習、同実験、同野外実験など（他の教官との分担科目を含む）の予定です。

5. 採用予定日：平成15年6月1日

6. 提出書類：

- ・履歴書（形式は自由）1通
- ・研究業績リスト（査読付き学術論文とその他を分けて記載すること）1通
- ・主要論文10編の別刷またはコピー
- ・これまでの研究の概要（1000字程度）
- ・着任後の教育と研究に対する抱負（1000字程度）

7. 公募締切日：平成15年2月28日（必着）

8. 書類提出先：〒305-8571 つくば市天王台1-1-1
筑波大学地球科学系長 木股三善

「教官応募書類」と朱書した上、簡易書留にて郵送のこと

9. 選考方法：書類選考、ただし必要に応じて面接を行うことがあります

10. 問い合わせ先：地球科学系 木村富士男

Tel：0298-53-4430（直通）

E-mail：fkimura@atm.geo.tsukuba.ac.jp